



2020年 米国大統領選挙の行方

◆ 大統領選挙が1年後に迫る

- 2020年11月3日、米国大統領選挙の投票が行われます。2020年3月に予備選挙が集中する“スーパーチューズデー”を経て、民主党は7月の党大会で候補者を決定します。共和党は、現職のトランプ氏が候補者となることがほぼ確実視されています。

◆ 民主党の候補者選びは難航

- 民主党の現時点の有力候補者は、オバマ政権で副大統領を務めたバイデン氏、2016年の大統領選で民主党候補をヒラリー・クリントン氏と争ったサンダース氏、急進的な政策を提唱する女性候補ウォーレン氏、37歳でインディアナ州サウスベンド市長を務めるプティジェツジ氏、実業家で前ニューヨーク市長のブルームバーグ氏の5名です。
- 支持率をみてみると、バイデン氏が有利な状況が続いていましたが、サンダース氏との差はわずか8.5%（2019年12月20日時点）となっています。プティジェツジ氏やブルームバーグ氏も支持を広げており、民主党の候補者選びは難航することが予想されます。

◆ 株式市場はトランプ氏の再選を歓迎か

- 富裕層への増税や金融規制強化、国民皆保険や大学無償化を掲げるサンダース氏やウォーレン氏が大統領になると、米国景気へ逆風となる可能性が高く、株式市場には嫌気される展開となることが見込まれます。
- 一方で、現職のトランプ氏が再選した場合、対中国外交に関してより強硬となる可能性があります。現行の政策が引き続き遂行されることや、選挙期間中には新たな追加景気対策等が発表される可能性もあり、株式市場にはトランプ氏再選のシナリオが好感されると考えます。

米国大統領選挙スケジュール

(2019年12月20日時点)

日程	イベント	主な注目ポイントなど
2020年 2月	予備選挙・党員選挙開始	選挙戦開始
3月3日	“スーパーチューズデー”	予備選挙の集中日
7月13~16日	民主党 党大会	民主党候補者の決定
8月24~27日	共和党 党大会	共和党候補者の決定
11月3日	大統領選挙	トランプ氏再選するか
2021年 1月	大統領就任	

出所：各種報道資料をもとに明治安田アセットマネジメント作成

米国二大政党の概略

(2019年12月20日時点)

	共和党	民主党
政治スタンス	保守（右派）	リベラル（左派）
主な支持層	白人、富裕層など	黒人、ヒスパニックなどのマイノリティ
政策	減税、“小さな政府”	富の再分配、“大きな政府”
直近の大統領（任期）	・子ブッシュ（2001~2009） ・トランプ（2017~）	・クリントン（1993~2001） ・オバマ（2009~2017）
シンボル	象。シンボル色は赤	ロバ。シンボル色は青

出所：各種報道資料をもとに明治安田アセットマネジメント作成

民主党の主な候補者

(2019年12月20日時点)

氏名	年齢	経歴	政治スタンス	支持率	株式市場への影響
ジョー・バイデン	77	前副大統領	中道	27.8%	△
バーニー・サンダース	78	上院議員	リベラル	19.3%	×
エリザベス・ウォーレン	70	上院議員	リベラル	15.2%	×
ピート・プティジェツジ	37	インディアナ州サウスベンド市長	中道	8.3%	△
マイケル・ブルームバーグ	77	実業家、前ニューヨーク市長	中道	5.0%	△

※支持率は、Real Clear Politicsがまとめた2019年12月4日~17日の平均値を使用

出所：各種報道資料、Real Clear Politicsのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。